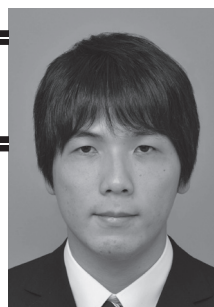


私の学習改革

大学院理学研究科 生物分子科学専攻
博士前期課程 2年

古賀 千貴さん

指導教員：曾根 雅紀 准教授



日本とEUが連携する修士課程を対象とする学生交流プロジェクト (Edu-Neuro EU-JP) の派遣学生として、昨年12月から留学している理学研究科の古賀千貴さんに、留学先からコメントをいただきました。

Q1 留学先の大学について教えてください。

ドイツの都市ケルンにあるケルン大学の大学院に留学しています。特色は、設立が1388年でヨーロッパ最古の大学の一つであり、またドイツで最大の大学で、留学生も多く活気に満ちています。



ケルン大学

Q2 今回、留学を志望した理由をお聞かせください。

東邦大学ではショウジョウバエを用いた研究しかしていなかったので、別の研究法で神経科学を学びたかったことと、将来のために国際的な経験を積みたかったからです。

Q3 現在の研究内容、取得予定の科目などについて教えてください。

ショウジョウバエ以外のモデル生物として、ゼブラフィッシュを用いた新しい嗅覚受容体遺伝子の探索とstick insect (ナナフシ) を用いた神経解剖学と神経生理学的研究を行いました。現在は、ゼブラフィッシュの研究を再開して行っています。



研究室での一場面

Q4 友人との交流や学習・研究環境について教えてください。

現在所属している研究室のメンバーの多くは留学生で、バングラデシュ、ロシア、中国などから来ています。彼らは皆、フレンドリーで研究熱心です。

図書館や研究設備は整っていて良い学習環境です。

Q5 日常生活について教えてください。

●住まいの環境

大学院から徒歩10分ほどのUnicentorというところに住んでいます。部屋は、1DK、8畳の洋室で、ユニットバス、ベッド、棚、冷蔵庫、電気コンロがついています。ベランダからはケルン大聖堂がかすかに見えます。

●留学中に苦労したこと、楽しんでいることなど

ケルンでの生活に慣れること、英語でのコミュニケーションには苦労しました。ドイツでは学生が優遇されており、州内での電車・バスの運賃が無料になるので観光を楽しんでいます。



ケルンの街の様子

Q6 最後に、後輩へのメッセージをお願いします。

海外留学は苦労することは多いですが、それに見合った見返りが得られると思います。国際的経験を得るいい機会だと思うので、ぜひ参加してもらいたいです。